

令和7年度 県立多賀高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校				
	(2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校				
	(3) 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「シチズンシップ」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校				
三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)		よりよい社会づくりに主体的に貢献しようとする「市民性」を培い、社会に貢献できる人材を育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)		多様な進路ニーズに対応するカリキュラム編成及び探究学習を基盤とする主体的な学習態度の育成		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)		学校づくりの主役として日々努力し、自己有用感・自己肯定感を高めることができる生徒 学習意欲を持ち、学校教育活動全体を通して、スポーツ・文化・芸術を主体的に体感し楽しもうとする生徒		
昨年度の成果○と課題△		重点項目	重点目標		達成状況
○国公立大合格者6名(昨年度6名) △四大進学者数125名(昨年度135名) △ベネッセ学力テスト(1.2年)B3以上20.0%		新学習指導要領の学習評価に即 (1) した授業体制による学力の向上、 並びに主体的な学習体制の構築	① タブレット等を活用した家庭学習教材の配信増・家庭学習時間一日平均90分以上 外部模試において、各教科において偏差値50以上の生徒10人以上		B
△生徒による授業評価アンケート(4点満点) 満足度3.4、Teaching3.5、Coaching3.4		(2) 授業改善の実施	② 四大進学者のうち国公立大学合格者7名以上 進路実現率100%		B
○HRへの帰属意識が向上→自己有用感の向上 △規範意識の向上→生徒指導事業の増加		(3) 自治的能力と自律心の育成	③ 生徒による授業評価の学校全体の平均3.5以上		B
○学校行事等で主体的に取り組み、自己達成感を得られた生徒90%超 ○SCの活用増(延べ生徒65、保護者2) ※昨年度 生徒55、保護者2 ○SSWの活用による問題解決(6件) ○転退学者数減(転8、退2) ※昨年度 転12、退1		(4) 切磋琢磨の奨励と心身のケア	④ HRへの帰属満足度90%以上 特別指導案件の削減(R6 17件)		B
			⑤ 行事後のアンケートで自己達成感・満足感を得られた生徒90%以上		A
			⑥ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用状況についての保護者と生徒の認知度向上 (R6学校評価アンケート肯定的意見 保護者47.4%、生徒55.2%)		B
			⑦ 各行事の充実等により生徒の居場所を確保することで、自己肯定感を醸成し転退学者数を削減(R6転8、退2)		A
			⑧ キャリアパスポートを活用し、自分を振り返る機会が年3回以上		B
△超過勤務時間月45時間超30.0%(2位) 月80時間超3.2%(8位)		(5) 働き方改革の実施	⑨ 超過在校時間45時間以上0名 勤怠管理システム未登録者0名		C
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度への課題
教務	1 教育課程の着実な実施	①各授業時間の確保(授業交換の徹底、考查間の各授業実施率の均等化、曜日交換の実施、学校行事の精選) ②本校グランドデザインと教育課程実施における年間指導計画ならびに各教科評価システムの顕在化(グランドデザインと年間指導計画のホームページでの公開)		B	B ・曜日限定勤務の職員増加のため、曜日変更は困難だった。行事配置の工夫で対処していく。 ・指導と評価の一体化、ICTの活用が定着し、本校独自の評価規準、指導体制が醸成しつつあるが、引き続き問題点を洗い出し、次の学習指導要領施行に向けて研究していく。 ・考查の取り扱いについては、引き続き緊張感をもって取り組み、成績処理トラブル未然防止に努める。 ・校務支援システムを最大限に活用し、出欠管理、生徒の活動記録等の効率化を図ることができた。 ・時代に適応した校内規程の見直しを継続的に進めていく。
	2 新学習指導要領実施に伴う研究	①新学習指導要領に基づく教育課程の検討継続と各教科における指導方法及び評価システム構築の研修機会の増加→2回以上開催(教育課程検討委員会) ②授業改善や指導と評価の一体化に関する研修会や相互授業参観等の実施→2回以上(授業改善推進チームを中心に) ③ICT(タブレット端末等)を活用した授業についての研修会を、年度初めから計画的に継続実施→3回以上実施(GIGAスクール構想推進委員会)		B	
	3 情報管理の徹底と効率化	①審査問題・答案や成績を含む個人情報の管理の徹底と情報管理手順の確実な伝達(審査問題・答案の保管、素点・成績等の取扱いについて毎回注意喚起) ②審査の申し合わせ内容および再審査に関わる内容についての検討 ①校務支援システムの円滑な運用に伴う、活用マニュアルの改編 ②諸帳簿の確実な運用記入・点検体制の構築(新学習指導要領指導要録の点検方法の見直しとマニュアル化) ③ICT機器の管理運営マニュアルの見直しと作成 ④校内規程集の継続的な改善・整備		B A	
教図書係	4 図書館利用の促進	①図書利用環境の整備 ②図書委員会の活性化 ①利用者を増やす具体的方策の検討(学年や教科との横断的な利用の検討)		B B	B 図書館の「情報センター」「読書センター」としての機能充実を図っていく。
教渉外係	5 PTA活動の活発な運営	①各PTA行事内容の検討および実施(PTA総会への保護者参加増の方策の検討)		B	B PTA活動への保護者の参加率アップの方法を検討していく必要がある。
	6 各種活動ごとの内容のブラッシュアップ	①評議員決定方法、各係・各学年PTAの活動内容および実施時期の再検討		B	
生徒指導	1 問題行動の未然防止	①生徒との信頼関係の構築に重点を置いた、各種生活指導の徹底		A	B ・要支援生徒対応の教員研修の充実 ・内規の確認を毎年実施
	2 要支援生徒への早期対応	①要支援生徒の増加に対応するための教員研修の充実		B	
	3 生徒や社会の実態に応じたルールの研究	①生活指導に関する学校内規の見直しを検討		B	
進路指導	1 学習習慣の確立および基礎学力の養成	①週末課題・小テスト実施の奨励 ②Classiによる家庭学習時間入力の徹底 ③家庭学習時間一日平均90分以上		B	B ・学習習慣の確立と基礎学力の養成 ・総探や特活と連携した年内入試対策。資格取得の推奨。 ・共通テストを目標とした1年次からの計画的な学習動画配信 ・系統的な小論文指導 ・就職制度変更への対応。公務員課外の在り方。
	2 大学一般入試に対応する学力の錬成	①長期休業中の課外指導、模擬試験の活用(解説・解き直し含む) ②国公立大学合格7名以上 ③外部模試における各教科偏差値50以上の生徒10人以上		B	
	3 一人一人の進路希望の実現	①面談3回以上実施 ②小論文指導等の個別指導の充実 ③進路希望実現率100%		A	
特別活動	1 生徒自ら企画立案する場の確保	体育祭の運営を生徒が主体的に取り組めるよう、企画立案・運営の場を設定する。 HR活動で5回・委員会活動・学校行事で各2回以上実施		B	B ・学校行事において、生徒が主体となって企画立案を行うことができるようにサポートする体制の確立。 ・ICTを用いた学校行事の企画立案。
	2 特別活動精選の検証	部活動運営方針等、部活動の在り方を検証し精選		B	
	3 生徒の主体的な活動としての部活動指導体制の確立	部活動における様々な経験を通して、心身を練磨し他者と積極的にに関わり、人としての成長を促す。		B	
	4 ICTを活用した行事の運営	①行事等でICTを効果的に活用 ②オンラインを活用した学校行事の運営		C	
	5 キャリアパスポートの活用	特別活動主催行事(クラスマッチ・野球応援・体育祭)において、振り返りアンケートを行う。		A	

* 評価基準：A (十分にできている)、B (達成できている)、C (概ね達成できている)、D (不十分である)、E (できていない)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題
保健厚生	1	学校環境の美化・整備	①ペットボトル、燃えるゴミ、弁当ゴミの分別を徹底(保健厚生部で毎月点検・確認を実施)	B	B ・ゴミの分別の徹底 ・感染症対策の呼びかけの徹底 ・防災対策の意識向上
	2	安全衛生管理の充実	①新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症の予防及び対策 ②災害備蓄品の管理表作成と整備	B	
	3	生徒の健康の保持増進	①学校での歯科検診未受診者に対する通院受診の指導を養護教諭が面談で実施 【指標】通院受診率5割	B	
第一学年	1	学習習慣の確立 および基礎学力の養成	①各教科でのClassi 動画の計画的配信や英検・漢検・数検・情報処理検定取得といった具体的目標の提示などにより、家庭学習を習慣化させる。 ②基礎学力を養い、1年後半における対外的な成績向上(ベネッセ学力テストB3以上の増加など)を目指す(7月<11月<1月)。	B	B ・家庭学習習慣の定着 ・Classiの有効活用 ・基礎学力の向上 ・規範意識の向上 ・検定試験の積極的受験
	2	進路意識の醸成	①Classiの導入及び学習記録の入力を継続させるため、担任による声かけなどを行う。また、進路に関する調べ学習や社会人インタビューなどを計画実施し、進路意識の高揚を図る。 ②類型選択のためのガイダンスを実施するとともに面談を行い、適性・能力に合わせた選択をできるように手助けする。	B	
	3	学校生活および集団活動を通じた望ましい集団の形成	①学校行事やホームルーム活動において、自発的・自律的に運営できるようになるための手助けを行う。 ②年2回以上の生徒面談を実施し生徒理解に努め、全ての生徒が心身ともに健康的な生活の実現を図る。	A	
第二学年	1	主体的な学習体制の確立及び学力の向上	授業、スタディサポート、classi等を通じ、家庭学習習慣の確立を促し、学力の充実および向上を図る。 目標：外部模試文系、国英歴偏差値45以上50名 理系、英数理偏差値45以上8名 家庭学習時間一日平均一時間以上(学年平均) 各検定受験者20名以上	B	B ・学習習慣の確立 ・組織的な進路指導 ・3教科偏差値55以上10名 ・欠席、遅刻者の減少 ・classiの活用徹底 ・個に応じた進路支援による全員の進路決定 ・3分の1適用地者の減 ・検定受験者の増加
	2	自身の進路に関する理解	生徒面談や進路行事、LHR・総合的な探究の時間等を通じて、生徒が自身の特性を理解し、進路目標を早期に確立できるよう支援する。 目標：2年3月段階で具体的な進路目標(入試方法等も含む)決定者8割以上	B	
	3	学校生活および集団活動を通じた望ましい人間関係の構築	授業やホームルーム活動、学校行事を通じて、生徒が主体的に運営・参加することにより自己有用感を高め、より良い人間関係を形成できるための支援をする。 目標：1年時と比較し遅刻者・早退者・7日以上欠席者の減少	C	
第三学年	1	学力の向上	①授業内容の充実、家庭学習課題への取り組みの向上、課外授業の実施などを通じた、全ての生徒の学力の充実・向上ならびに入試における学科試験に対応できる学力の獲得 目標：ベネッセ全国模試各教科において偏差値50以上の生徒10名以上、偏差値45以上の生徒20名以上	B	B ・増加する年内入試に対して志望理由書・面接指導などの指導をどこまで学年で行っていくべきか ・10月に降に遅刻等が増加することをいかに防ぐか
	2	進路目標の実現	①こまめな個人面談の実施および進路行事等における働きかけを通じて、生徒の進路目標の実現 目標：希望者の進路決定率100%	A	
	3	人間関係の育成	①授業やホームルーム活動、学校行事を通じて、生徒が主体的に運営・参加することにより自己有用感を高め、より良い人間関係を形成できるための支援をする。 目標：2年時と比較し遅刻・早退・7日以上欠席者の減少	B	
教科	国語	1 語彙・古典文法等の基礎学力の定着	①知識・技能の確認小テスト実施と授業内での事前・事後の啓発指導。 ②小テスト正解率60%、定期考査での振り返り問題正解率70%	B	B ・様々な進路に対応できる知識・技能の定着を継続して図る。 ・漢字検定の受験者数増加。 ・漢字検定の合格率向上に向けての対策。
		2 思考力・判断力・表現力の育成	①学習指導要領に準拠した言語活動を単元毎に1つ実施 ②ICT機器の利用とグループ活動やペア学習の実践	B	
		3 漢字検定受験者の合格率向上	①学習教材の提供および受験後の分析情報提供による意欲喚起 ②上位資格となる準2級以上の受験者の合格率70%以上	C	
	地歴・公民	1 基礎学力の定着	ワークノートを活用したり、小テストを実施したりして知識の定着を図らせる。 【指標】模擬試験偏差値50以上 一般クラス1人以上、特進クラス10人以上	B	B ・3年間を通した進度等の検討 ・演習と基礎的知識の定着との両立
		2 ICTを取り入れた授業の実施	すべての科目でICT機器を活用し、調べ学習や発表機会を多く設けるような授業改善に取り組む。	A	
		3 表現力の向上を図る授業の実施	論述式問題などを取り入れ表現力の育成を図り、総合型入試での合格者増加に結び付ける。	B	
	数学	1 ICT授業の実施	①電子黒板を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施 ②生徒用タブレット等を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施	B	B ・ICTを利用した授業実践と研修 ・数学検定の合格者の増加
		2 学習習慣の定着	①Classiによる動画配信や定期考査前の課題提出【指標】提出率100% ②長期休業中の課外を実施【指標】参加率50%	B	
		3 数学検定の合格率の増加	①受験者に対する課外を実施【指標】受験者40名以上	C	
	理科	1 ICTを取り入れた授業の実施	①教科におけるICT研修及び、教材・技術の共有 ②ICTを活用した授業を8科目全てで実施	A	B ・ICT活用の研究 ・実験を実施する環境の整備
		2 体験的学習の推進	①生徒及び演示実験を各科目3回以上実施 ②実験が実施できない場合は動画映像資料で代用	B	
		3 思考力・判断力・表現力の育成	①ペアワーク、グループワークを取り入れた授業を実施 ②学習成果を発表する場を1回以上設ける	B	
	保健体育	1 規律順守の徹底	①始業時の整列や挨拶、準備体操、体力づくりなどを主体的に実践させ、指導・評価・助言を実施	A	A ・3年間を通し、基礎体力・技能・人間力の向上を目指すし、授業の工夫と研究を継続する。 ・ICTを活用した保健・体育の授業の実践
		2 基礎体力の向上	①運動学習場面60%を目標に、運動量の確保	A	
		3 わかる保健授業の展開	①授業力向上のための科内研修を月に1度実施	B	
	芸術	1 創作の喜びを実感させる授業展開と手立て	生徒が創作の楽しさを実感することのできる教材を精選し、授業ではそれぞれの生徒が積極的に創作に取り組めるよう個々に応じた支援を行う。	B	B ・ICT活用の幅を広げる。
		2 アクティブ・ラーニングを取り入れた学習活動の充実	作品について発表させたり、生徒同士で作品を相互批評させたりするなど、主体的・対話的で深い学びを実現することのできる学習活動を授業で実施する。	A	
		3 授業での効果的なICT活用	モニターやタブレット、学習ツール等のICTを効果的に活用し、授業に対する理解や学びをより深めることのできる授業を実践する。	B	
	外国語	1 大学入試に対応できる「読む力」の育成	①授業および家庭学習課題において英文を読み、定期試験及び確認テストを行う。 (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B	B ・生徒は言語活動、発表には意欲的に取り組んでいる。一方、大学入試(一般入試)に対応できる英語力(「読む力」、「聴く力」)の育成が課題である。生徒の英語力が幅広いため、指導の工夫が必要である。 ・英検の受験者数が減っている。大学入試で年内入試希望が増えているため、引き続き英検取得を奨励していきたい。 ・ALTの活用
		2 大学入試に対応できる「聴く力」の育成	①授業および家庭学習課題において英語を聴き、定期試験および確認テストを行う。 (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B	
		3 英語による思考力・判断力・表現力の育成	①授業において「書く」「発表・やりとり」などの活動を行い、提出作品やパフォーマンステストにより評価する。 【指標】[B評価]提出作品やパフォーマンステストにおいて、到達目標を全ての生徒が達成	B	
		4 英検受験の奨励と資格取得者増加	①「受験の奨励」を鑑み、(準)会場を設定して受験を奨励するとともに、1次試験合格者に対しては2次試験対策面接を実施する。 【指標】 1学年：準2級取得者20名以上(既取得者含む) 2学年：準2級取得者50名以上(既取得者含む)、2級合格者5名以上 3学年：準2級合格者70名以上(既取得者含む)、2級合格者10名以上(既取得者含む)	B	

* 評価基準：A (十分できている)、B (達成できている)、C (概ね達成できている)、D (不十分である)、E (できていない)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度への課題
教科	家庭	1 家庭生活を充実向上するために必要な知識・技能・態度の育成	①自立した生活者として生きていくために必要な、知識・技能・態度を身に着けるため、探究活動やICTの活用を適切に取り入れ、実践力を育成していく。 【指標】(1)自立した生活者としての意識と知識が向上したと答える生徒80%以上 (2)ICTを活用した効果的な指導方法の研究をさらに進める	C	B	・ICT活用の充実 ・年間指導計画の見直し
		2 自己の家庭生活の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。	①ホームプロジェクトの事前指導を適切に行い、夏季休業中課題としてホームプロジェクトを実践し、優秀な作品は掲示するなどして、生徒に共有する。 【指標】ホームプロジェクトの全員提出。作品の掲示。	A		
		3 実験・実習の効果的な実施	①ICTを効果的に活用し、実験・実習を効率よく行い、知識・技術を効果的に身に着ける 【指標】(1)授業の5/10以上に実験・実習・探究の要素を取り入れる (2)実技分野で実践力が向上したと答える生徒80%以上	B		
	情報	1 情報化社会で必要となる態度・知識・技能の定着	①新テスト対応を念頭に知識、技能の定着を図るAL型授業の拡充研究 【指標】「情報化社会を生き抜く知識・態度が身についた」者90%以上	B	B	・生徒の個々に対応して興味関心をもたせられるような授業をしていきたい。
		2 個別テーマ学習の実施	①テーマの理解、解決、自己の考えの形成、解決法、表現方法を個別に指導 【指標】「自己の考えを的確に表現できるようになった」者85%以上	B		
		3 主体的・協働的な学びの評価の確立	①AL型授業の実践を通し、評価方法の確立と、評価の生徒へのフィードバックを充実する 【指標】「自ら進んで他者と協力することができるようになった」者85%以上	B		
総合的な探究の時間	1	進路実現(大学・専門学校・就職等)に関する自らの課題を発見し、まとめて他者に伝えることにより、それらに関する知識を深めることができるようになる。	①社会人インタビュー：地域の社会人を招き、希望別に講話を聴講。事前学習、実施、振り返り、発表を行う。 ②大学見学会、大学模擬講義：1学年は大学を希望別にコースを設定し見学。2学年は各大学の教員を招き、実際に講義を聴講。事前学習、実施、振り返りを行う。	A	A	・外部と積極的に連携した探究活動の実施。 ・総合型入試・学校選抜型入試を意識した探究活動の実現。 ・他の分掌と連携した、3年間の見通しを持った探究活動計画の作成。
	2	調べたことについて考え、整理してまとめ、表現できるようになる。	探究スキル育成(1学年)：探究ナビ等を使用し、探究スキルを育成する。 課題探究学習(2学年)：興味関心に応じて、テーマごとに現状と課題について調べ、課題解決について探究したことをまとめて発表。質疑応答などを経てさらに発表の質を高める。	A		
	3	現代社会に柔軟に対応するための課題解決能力を高めることができる。	①個人での探究活動をさらに深めていく。 ②小論文指導では、国内外で起こっている様々なことがらについての記事やニュースから問題点や感じたこと、解決策などを文章にまとめる。	B		
いじめ対応問題	1	いじめの未然防止・早期発見	①生徒・家庭への定期的な声掛け・連絡により信頼関係を構築 ②集会・HR等での指導やいじめ調査・面談週間等を活用し、未然防止・早期発見に努める	A	A	・いじめ問題対応の研修の充実
	2	問題発生時の初期対応の徹底	①被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底	A		
	3	教員研修会の充実	①いじめ問題対応の研修を実施	B		
その他	1	授業改善	①生徒による授業アンケートを活用した授業改善の実践。授業評価アンケート平均3.5以上	B	B	・授業評価アンケートの結果活用法の研究 ・超過勤務時間月45時間以内の徹底
	2	働き方改革への対応	①業務精選と業務の効率化を図り、超過勤務時間月45時間以内を徹底する。 ②休暇の取得促進する。	C		

* 評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）